

令和5年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2-1 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

2-2 「大阪市版チャレンジテストplus」の調査の目的

- (1) 生徒及び保護者が、学習理解度及び学習状況等を知り、目標をもって主体的に学習に取り組めるようにする。
- (2) 学校が生徒一人ひとりの学力を的確に把握し、学習指導の改善及び進路指導に活用する。
- (3) 学びの連続性を確立する観点から、客観的・経年的なデータを把握、分析し、効果的な指導方法や課題を「見える化」し、その改善に役立てる。

3 「大阪市英語力調査（GTEC）」の調査の目的

- (1) グローバル社会において活躍し貢献できる人材の育成をめざし、生徒の英語力の充実・向上を図るため、本市教育振興基本計画に基づき、生徒に求められる英語力や学習の習熟過程等を把握・検証する。
- (2) 生徒が自らの英語力を的確に把握するとともに、生徒の英語力の実態を分析することにより、各学校における学習指導の充実や改善、工夫に役立てる。

令和5年度 喜連中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

1 全国学力・学習状況調査

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均正答率(%)			平均無解答率(%)		
			国語	数学	英語	国語	数学	英語
3年	学校	182	62	43	37	6.3	14.5	8.7
	大阪市	—	67	49	44	5.2	11.0	6.6
4月18日	全国	—	69.8	51.0	45.6	4.6	9.6	5.7

2 中学生チャレンジテスト

学年 実施月日		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会※	数学	理科※	英語	国語	社会※	数学	理科※	英語
3年	学校	182	55.2	52.9	49.6	43.9	47.2	13.9	3.8	13.9	8.9	9.4
	大阪市	—	62.3	54.2	51.9	47.8	54.3	9.9	2.9	10.6	8.0	6.2
	大阪府	—	62.1	54.7	52.2	47.6	54.2	10.3	3.1	11.2	9.0	6.5
2年	学校	183	62.5	47.2	45.3	33.1	45.2	10.5	4.0	13.6	13.2	12.2
	大阪市	—	66.7	54.6	52.2	39.8	57.2	8.2	3.2	11.2	11.1	8.6
	大阪府	—	66.8	54.2	52.2	40.3	57.1	8.3	3.5	12.0	11.8	8.9
1年	学校	157	53.4	45.8	47.1	63.0	57.9	9.1	5.6	11.0	0.9	5.3
	大阪市	—	60.6	56.0	55.4	62.2	64.1	8.7	5.2	8.7	1.9	4.3
	大阪府	—	60.8		54.7		64.1	9.6		9.6		4.9

※ 1年生の社会・理科については、「中学生チャレンジテストplus」として実施

※ 1年生の理科は化学的領域を選択

※ 2年生の社会はA問題を選択 2年生の理科はB問題を選択

※ 3年生の理科はC問題を選択

3 大阪市英語力調査 (GTEC)

学年 実施月日		生徒数 (人)	読むこと 【リーディング】	聞くこと 【リスニング】	書くこと 【ライティング】	話すこと 【スピーキング】
			(スコア)	(スコア)	(スコア)	(スコア)
3年	学校	182	89.8	91.3	108.1	81.2
	大阪市	—	101.3	107.7	137.9	102.2

調査結果から

【成果と課題】

○中学生チャレンジテスト(2年)

<国語>

全体の平均正答率では府平均を4.3ポイント、市平均を4.2ポイント下回っている。無回答率では府平均を2.2ポイント上回り、市平均を2.3ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項において府平均を0.1ポイント上回り、市平均を0.2ポイント上回っている。
- ・情報の扱い方に関する事項において府平均を0.7ポイント下回り、市平均を0.7ポイント下回っている。
- ・我が国の言語文化に関する事項において府平均を1.7ポイント下回り、市平均を1.9ポイント下回っている。
- ・話すこと・聞くことに関する事項において府平均を1.6ポイント下回り、市平均を1.5ポイント下回っている。
- ・書くことに関する事項において府平均を0.7ポイント下回り、市平均を0.6ポイント下回っている。
- ・読むことに関する事項において府平均を2.0ポイント下回り、市平均を2.1ポイント下回っている。

<社会>

全体の平均正答率では府平均を7.0ポイント下回り、市平均を7.4ポイント下回っている。無回答率では府平均を0.5ポイント上回り、市平均を0.8ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・地理的分野に関する事項において府平均を3.8ポイント下回り、市平均を4ポイント下回っている。
- ・歴史的分野に関する事項において府平均を3.2ポイント下回り、市平均を3.4ポイント下回っている。

<数学>

全体の平均正答率では府平均を6.9ポイント下回り、市平均を6.9ポイント下回っている。無回答率では府平均を1.6ポイント上回り、市平均を2.4ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・数と式に関する事項において府平均を1.8ポイント下回り、市平均を1.9ポイント下回っている。
- ・図形に関する事項において府平均を2.7ポイント下回り、市平均を2.7ポイント下回っている。
- ・関数に関する事項において府平均を2.4ポイント下回り、市平均を2.4ポイント下回っている。

<理科B>

全体の平均正答率では府平均を7.2ポイント下回り、市平均を○ポイント6.7いる。無回答率では府平均を1.4ポイント上回り、市平均を2.1ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・「粒子」に関する事項において府平均を3.0ポイント下回り、市平均を2.9ポイント下回っている。
- ・「生命」に関する事項において府平均を2.0ポイント下回り、市平均を1.8ポイント下回っている。
- ・「地球」において府平均を2.2ポイント下回り、市平均を2.0ポイント下回っている。

<英語>

全体の平均正答率では府平均を11.9ポイント下回り、市平均を12.0ポイント下回っている。無回答率では府平均を3.3ポイント上回り、市平均を3.6ポイント上回っている。

領域別での平均正答率では、

- ・聞くことに関する事項において府平均を3.6ポイント下回り、市平均を3.8ポイント下回っている。
- ・読むことに関する事項において府平均を3.7ポイント下回り、市平均を3.6ポイント下回っている。
- ・書くことに関する事項において府平均を4.7ポイント下回り、市平均を4.5ポイント下回っている。

【今後に向けて】

<国語>

昨年度の結果を受けて課題としていた、「無回答率を下げる」という目標に対して、僅かながら達成することができた。

言葉の特徴や使い方に関する事項において、毎度の授業で小4～小6で学習した漢字のテストを行い、語彙に関する力を伸ばすよう、継続した指導を行った。また、書くことに関する事項への取り組みとして、単元ごとの作文活動を継続して行った。それらの活動が今回の回答率や正答率の上昇につながったと考えられる。一方、授業内でスピーチや話し合いの活動など、「話すこと・聞くこと」に関する事項への取り組みが、なかなか継続して取り組めていないことが今回の結果に表れたと考えられる。今後においては、言葉の使い方や書くことに関する事項においての指導を継続して行いながら、話し合いや発表などの活動を工夫し、話すこと・聞くことに関する事項の基盤となる力をつけさせていくようにしたい。

<社会>

全体的に無回答率が高かったので、無回答率を0に近づけるように、日ごろの課題や宿題から意識して取り組む。

基礎学力の定着に向けて、プリントの作成の仕方について工夫していく。

<数学>

昨年度の結果と比較すると、大問1の基礎計算(計算の順序等を問う問題)に関して、無回答率の割合が低くなり改善がみられる。年間を通じ、基礎計算に注力し、定期テストで入試の大問1を意識した出題形式に変更したことが結果に表れた形ではないかと考える。授業内での反復学習(演習)の時間を確保し、『わかる』が『できる』になるように指導していく。その中でアクティブラーニングを実施していかなければ、生徒の学力向上には繋がらない。座り方の工夫ではなく、教え方の工夫をし常に教員側は生徒の反応をみて臨機応変に対応をする。昨年は新型コロナウイルスについての内容が書かれていたが、そんなことは全学校で共通であり条件は同じなので、しっかりと教員側が高い志をもち、生徒一人ひとりの能力を見極め、適切な対応をし、受験を見据えて基礎の定着と実践に向けた意識付けを行っていく。

<理科B>

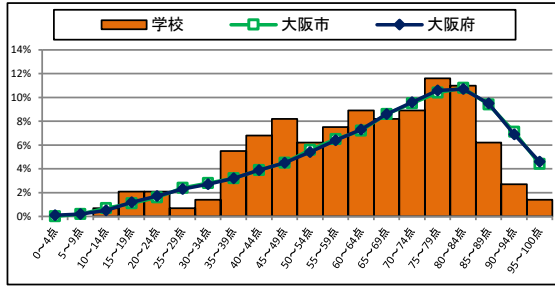
基本的事項の定着を図る。そのために、反復練習を徹底したい。練習の完成をもとにして生徒の苦手意識を軽減、理解を実感させ、無回答率も改善させたい。また、とくに苦手とする論述作文と計算問題を、演習時間にていねいに解く機会を増やし、理解度の向上を目指す。

<英語>

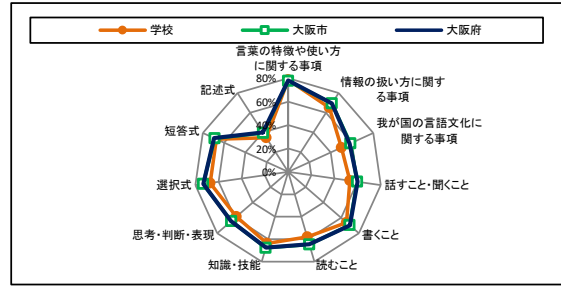
2年生が受けた英語のチャレンジテストの結果、明らかになった問題点は、英語のライティング能力と基礎的な知識や技能がやや不足していることです。これらの課題に焦点を合わせ、今後は継続的な努力と反復練習を通じて、これらの課題を克服していく予定です。英語の書く力や基礎的な知識や技能を向上させるために、様々な演習や練習を通じて積極的に取り組んでいきます。この取り組みを通じて、3年生に向けて英語力を着実に向上させ、自信をつけていくことを目標としています。

【国語】

【得点分布】

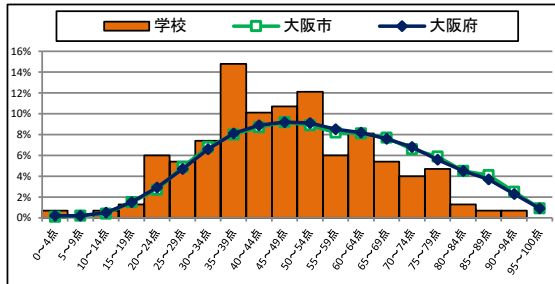


【領域・観点・問題別の分布】

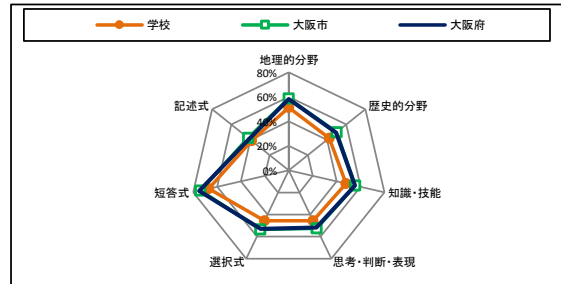


【社会A】

【得点分布】

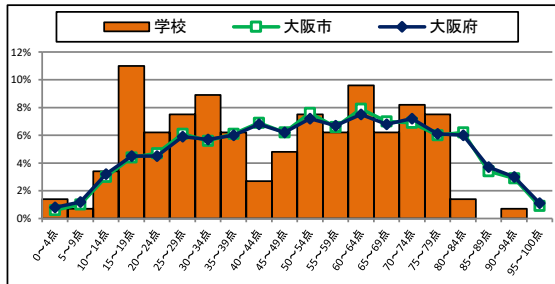


【領域・観点・問題別の分布】

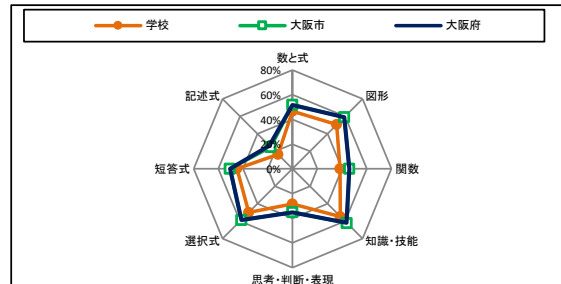


【数学】

【得点分布】

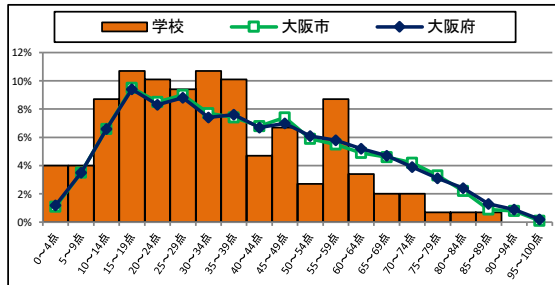


【領域・観点・問題別の分布】

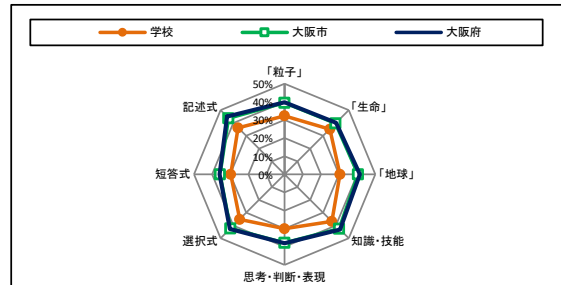


【理科B】

【得点分布】

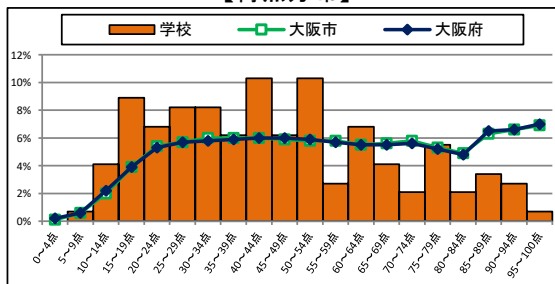


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

